

yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No.13
平成19年5月31日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

選択（1）

パソコンで何か作業をするときの原則は、「何をどうする」の形です。
つまり、始めに作業の対象を「選択」し、その後、「どうする」かをパソコンに指示します。

この、選択の操作は、場合場合によってさまざまです。

もっとも一般的なのは、マウスでのクリックです。クリックすると、操作対象となった箇所の表示が変わります。文字入力の場合では、クリックしたところに文字入力カーソル（点滅する縦棒）が移動します。これは、文字入力位置の「選択」です。「枠」では、枠の周りにハンドルと言われる小さいマークが表示され、枠全体が四角く囲まれたりします。デスクトップアイコンでは、表示の色が変わります。表計算では、セルが強調表示になります。

マウスを目的の箇所に乗せるだけで選択できる場合も多くあります。インターネットの画面では、クリックするとページ移動できる場所（ハイパーリンクが設定されている、と言います）にマウスカーソルを合わせると、手の形になります。ツールバーやメニュー項目では、小さいアイコンや文字の表示が変わります。表示が変わる、ということは「選択された」ということです。こういう箇所では、クリックすると作業開始で、何かが起こります。たいていは画面が変わり、小さいウィンドウ（プルダウンメニューやダイアログボックス）などが表示されることもあります。（こういうところでは、ダブルクリックしてはいけません。）

文字列ではドラッグ、という選択の仕方があります。ドラッグして黒く（表示が反転する、と言います）します。インターネットの画面などでドラッグすると、文字だけでなく、そこにある画像なども一緒に選択されます。

一太郎やワードといったワープロソフトでは、Altキーを押したままドラッグすると、文字範囲を矩形に選択することができます。

「選択」すると画面表示がさまざまに変わります。変わる、ということは、画面を通してパソコンが「返事」をした、ということです。これをきちんと受け止めることができないと、その次の作業ができなくなります。クリックするべきところで、ダブルクリックしていませんか？

パソコンを操作して、次に何をしようとしているのか、まず、「選択」という操作でパソコンとの会話が始まります。次に、それに対してパソコンは返事をします。こういったパソコンとのコミュニケーションをスムーズにすることを、まず意識してパソコンを使いましょう。